

■蜂須賀重喜 徳島藩主。藩政改革に挑戦するも、事なかれ主義家臣と利権維持商人らの陰謀で失脚、水泡に帰した。

はちすかしげよし
・・・・・・1738＝ 江戸で、出羽国秋田藩新田領主佐竹義道の四男に生まれる。

徳川吉宗隠居1745＝ 7歳：

義経千本桜・1747＝ 9歳：

佐竹氏の藩校に学んだ後、

稲葉迂斎に師事して朱子学を学び、やがて門下の俊才として知られるようになり、

徳川吉宗没・1751＝13歳：

この間、徳島藩内の藍の栽培が最盛期を迎え、全国市場をほぼ独占し、“阿波踊り”も隆盛となり、この年、日光東照宮修理の莫大な経費負担などで財政破綻の状態となるも、大坂藍商人と結託する藩士らの奢侈な生活は改まらないといった状況のなか、

山脇東洋解剖1754＝16歳：

*幕命で徳島藩主となった蜂須賀至央が直後に発病したため、藩仕置家老の尽力で迎えられ、至央の死去後、10代藩主となり、

自然真営道・1755＝17歳：

・・・・・・1756＝18歳：

__お国入り。自らは質素な生活をして範を示しながら、*暴風雨や凶作で農民の困窮もその極に達するなか、藩の財源確保のため藍の専売制を実施しようとして、“五社宮一揆”が起こり、未然に防止後、藍一万俵を買い上げするが、家老の専権を禁止して反撥を買い、

源内物産会・1757＝19歳：

__延滞歩相銀の年賦上納を許可し、一揆の原因となった玉師株も廃止。

宝暦事件・・・1758＝20歳：

__一気には藩政改革すべく“職班官禄の制”を執政会議に出すや、藩士の意向を背景に家老山田真恒が公然と反対、解職して閉門に処すものの、新制も中止となり、

大式政治批判1759＝21歳：

__儉約令を発する一方、勘定方に財政再建策を問うも上級藩士優遇に手をつけようとせず、ついに辞職を決意、驚いた重臣らが編み出した給禄を見直して均等化の策が一時しのぎと釘を指すも黙認したが、

大岡忠光没・1760＝22歳：

*参勤のため江戸に上って、再び藩政改革に意欲を見せ、儉約を基本とした新令を定めるとともに、開墾や築港で増収をめざし、幕府の許可を得て旧例を前面廃止する(宝暦のお建て直し)。

・・・・・・1762＝24歳：

この年、集堂迂亭が女子教育も含む学校を興す建白書を提出し、“学制五条”を定めるも、実現せず。

錦絵始・・・1765＝27歳：

忠臣蔵大当り1766＝28歳：

__参勤から帰国し、藩政改革の仕上げをと人材を抜擢、大坂の藍商人の反対を押切り、徳島城下に藍玉市場を開く藍政改革を断行し、農民の願いも実現するが、

・・・・・・1769＝31歳：

__田沼意次の開放経済に逆行し、藍問屋と華美に溺れる阿波侍らの画策によって、次第に孤立、閉門中の山田真恒が修験者に調伏呪殺を依頼したため切腹させた事件の処理をめぐって2家老を閉門にしたことから、*幕府に横暴と見なされ、田沼意次が老中格になるや、隠居を命じられ、藩主を継いだ嫡子治昭が幕命で全てをもとに戻したことによって、藩政改革は水泡に帰した。

田沼意次老中1772＝34歳：

解体新書・・・1774＝36歳：

・・・・・・1781＝43歳：この年、高原村民が祠五社明神を建てて、一揆の犠牲者を祭る。

蘭学階梯・・・1783＝45歳：

田沼意次失脚1786＝48歳：

ラクスマン来日・1792＝54歳：

松平定信引退1793＝55歳：

宣長没・・・1801＝63歳：__没した。

「人づくり風土記(徳島)」、